

菅井 準一 すけがわ じゅんいち 科學史家。明治二十六年一月一日山形縣生れ、昭和五十七年六月十日歿（一九〇三—二〇二二）。昭和二年東京帝國大學理學部物理學科卒。六年陸軍大學校教授、十五年大政翼贊會文化部副部長、十七年文部省視學官兼科學官等を経て、戰後鎌倉アカデミア教授、二十八
年神奈川大學教授就任。また全國理科教育協議會會長、日本物理學會評議員、生活科學化協會理事等々を務めた。

著書 『物理學概説』 電氣磁氣學』（谷本止共著、昭和十一年七月十日岩波書店）、

『科學史の諸斷面』（昭和十六年十一月二十八日、増訂科學史の諸斷面）（力學及び電磁氣學の形成史）』（二十五年二月二十日岩

波書店）、 『科學文化の基礎』（昭和十七年十月十五日日本評論社）、

『國民生活の課題』（合著・大河内一男編、昭和十八年八月二十一日日本評論社）、

『科學事始』（昭和二十一年八月十五日天然社）、 『サイエンスエタイン』（現代科學への道）』（昭和二十二年十一月二十日日本圖書株式會社） 『科學者傳叢書』（合著

・荻原止夫編、昭和二十九年四月二十日理想社）、 『現代學問の歩み』（合著・茅越司編、明治二十九年十一月二十日大藏出版株式會社）等の他、譯書に、H・バターフィールド著 『近代科學の歩み』

（昭和二十一年五月十七日岩波書店） 『岩波新書』（がある）。

